

CORIAN® NEWS

フジバンビ

伝統と未来をつなぐお菓子のショーケース

新千歳空港 ANA SUITE LOUNGE/ANA LOUNGE

寛ぎの時間を生む表情豊かな素材の共演

つばめガスショールーム

コンロが美しく映えるショールームのキッチン

姫路市 K氏邸

美食とともに寛ぎの時を。人が集うキッチン

VILLAIR

上質な空間に映えるソリッドなキッチン

秋葉アトリエ

山形から世界へ発信 Emerge light table

師勝幼稚園

子どもが行きたくなる わくわくするトイレ空間



1、2 フジバンビの頭文字「F」をあしらったショーケース。「かどの駄菓子屋フジバンビ」には、やわらかい色合いのニュートラルコンクリートとココアブリマを採用。「フジバンビ スイーツファクトリー」はスタイリッシュなモノトーンの組み合わせ。 3 ショーケースや陳列棚はすべて商品サイズに合うよう高さや奥行きを設定。「凹凸や段差をつけて動きを出し、ただ並べるだけでなく、それぞれの商品がより引き立つようにバランスよく設計しました。季節のおすすめ商品などをピックアップして置くためのスペースも設けています。売り場を整えることで、商品に付加価値を与えることができればうれしいですね」と奈良氏。



伝統と未来をつなぐ お菓子のショーケース

フジバンビ

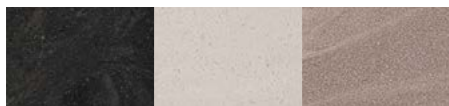
「黒糖ドーナツ棒」は、熊本の人なら誰もが知っている、世代を超えて愛されてきた定番の菓子だ。製造元は1948年創立のフジバンビ。「かどの駄菓子屋」の称号で親しまれてきた同社だが、創業70周年を迎えた2017年には新ブランド「フジバンビ スイーツファクトリー」を立ち上げ、新たな商品の開発にも力を入れている。熊本市の老舗デパート「鶴屋百貨店」内には、既存の商品群とは別に、新ブランド専用の売り場を設け、若い世代など新しい顧客層へのアピールも行っている。「こちらの売り場は、新ブランドを応援してくださる鶴屋百貨店さんから売り場面積拡大のお話をいただき、従来の「かどの駄菓子屋フジバンビ」と新ブランド「フジバンビ スイーツファクトリー」の2ブランドショップコーナーとしてリニューアルしました」と話してくださったのは、フジバンビ営業部 後藤明氏。売り場のデザインは、女性を主なターゲットにした洋菓子ブランドである「フジバンビ スイーツファクトリー」にふさわしく、スタイリッシュで高級感のあるものを希望された。「新ブランドで他社の売り場との差別化をはかりながら、これまで「かどの駄菓子屋フジバンビ」として築いてきた温かみのあるイメージも大切にしたいと考えていました。2つのブランドをそれぞれ確立させながらも共存させたい、と願いをしました」とフジバンビ 吉田恵理氏。

この課題を解決するプランを提案したのが、什器のデザイン、店舗設計、ディスプレイやVMDなど商空間にまつわるさまざまなデザインを手がける京屋の奈良浩二氏だった。「既存の商品とのマッチングや昔ながらの商品を愛顧くださる年配の方にも受け入れられる売り場であればなりません。大人っぽく、スタイリッシュで高級感のある雰囲気をさりげなく演出しながら、対照的な2ブランドの商品をそれぞれ引き立てることができるデザインを心がけました」。

そこで、ショーケースの化粧材に選ばれたのが、求める雰囲気を自在に表現できるコーリアン®だった。「つなぎ目が見えない加工ができるコーリアン®を使用することで、洗練された仕上がりになると考えました。カラーは、どちらのブランドの商品にも馴染みのよいグレージュ系を探しました。選ばれたのは、いずれも単色ではなく、流れの模様や石目などさりげない模様が入ったカラーだ。「単色ではなく、模様が入ること、表情が付き、柔らかさや上品さをだせると考えました」と奈良氏。この提案は、吉田氏が思い描いていたイメージにもぴったりだったという。

「コーリアン®のサンプルを見せていただき、その透明感、奥行き、流れ模様の美しさに、すぐに「これでいきましょう」と決めることができました。スタイリッシュな印象で、売り場の中でぱっと目につきますが、温かみもあって、企業イメージや製品とのマッチングもよいと思いました。お客様にも大変ご好評頂いています」と話してくださいました。

使用色 (左から)
アース、ニュートラルコンクリート、ココアブリマ 他



●所在地 熊本市中央区手取本町6-1 鶴屋百貨店本館地下1階
●デザイン監修 株式会社フジバンビ 吉田恵理、後藤明
●デザイン・制作 株式会社 京屋 奈良浩二



寛ぎの時間を生む 表情豊かな素材の共演

新千歳空港 ANA SUITE LOUNGE / ANA LOUNGE

使用色 (左から)
ホワイトオニックス、ソレル、ヘーゼルナッツ、
シエラパーントアンバー (2019年3月カタログ掲載終了色)



●デザイン監修 隈研吾建築都市設計事務所
●設計・施工 清水建設株式会社

ウンターテーブルに関しては、これだけの大きさなので、それに対応する強度があり、さらに現場でジョイントができる素材でなければなりません。ほかの部分については、たとえば輪染みがつかないこと、汚れを拭き取りやすいこと、削れにくいことなど、ANAさんから示された機能面の条件をクリアし、空港という場所でのハードユースに耐えられる素材を探すと、コリアン®に変わるのはなかなかみつけられません」と名城氏。

ラウンジ内の壁には北海道産の柱(せいの)の木の板材が貼られ、飛行機のフラップをイメージした天井には和紙、壁の巾木や家具の蹴込みにはブロンズの硫化いぶし仕上げなど、表情豊かな自然素材が採用されている。その中にも、流れ模様や石目柄のコリアン®は自然に馴染み、ほかの素材とともに、ラウンジ空間にふさわしい居心地のよさを生み出している。柄のあるコリアン®の使い方について名城氏にうかがってみると、「最近の我々の意匠の方向性にも通じるのですが、シャープにデザインしながらも、ミニマルになりすぎないところを目指す場合は、少し模様が入ると、ナチュラルな雰囲気がつくりますね」と語ってくださいました。

隈研吾氏監修による「ANAラウンジ」が新千歳伊丹、福岡など各地の空港で相次いでオープンし、話題を集めている。共通するコンセプトは「一期一会」。伝統的日本美と、先進性を融合したこれまでにない新しいラウンジ空間を提供したいというANAの想いを、その言葉に込めた。各空港でデザインの方向性は共有しつつ、それぞれの地域性をマテリアルやディテールに反映しているという。

その第一弾となった新千歳空港は2017年9月にリニューアルオープン。ラウンジに入るとすぐに苔をあしらった「山」のある大きなウンターテーブルが置かれている。

「二人でも気軽に座ることができる席を設けたいという要望があったので、大きなワークテーブルをイメージしてこちらを提案しました。空間を象徴する存在になるので、なにか地域性を感じさせるものを取り入れようという話になり、北海道の大地や空港周辺の丘陵地帯の景色を抽象化してこのように表現しました」と話してくださいましたのは、隈研吾建築都市設計事務所名城俊樹氏。

テーブルのワークトップにはコリアン®のホワイトオニックスが採用された。ブラウン系の床面やファニチャーに囲まれて、透明感のある白いテーブルは特別な雰囲気を醸し出している。

「大きな面になりますので、少し表情のあるもの、高級感のあるものにしたというところで、ホワイトオニックスを選びました。シームレスに仕上げられており、模様が大きいのでジョイント部分のつながりが不自然にならないか少し心配していましたが、まったく問題ありませんでした」。

ほかにも、ラウンジ内のコンシェルジュカウンターや滑走路に面した東側の壁一面に造りつけられたカウンターのワークトップ、ソファ席の肘掛部分、マガジンラック、返却台など、さまざまな場所にコリアン®が採用されている。「メインのカ



1950年創業、岡山市に本社を構えるつばめガス。岡山・倉敷・福山の地に密着し、ガス・通信・電気事業をはじめ住まいや生活に関わるすべての事柄の身近なアドバイザーとして事業を展開している。その一環として、顧客がいつでも自由にガスコンロの実物に触れ、検討することのできるコンロ専用のショールームを設けている。

「コンロはホームセンター等でも展示されていますが、あえてつばめガスに足を運んでくださるお客様に、当社ならではの付加価値をお届けしたい。そこで多くのお客様が好まれる高級志向で独自性のあるオリジナルキッチンを作り、いま最もおすすめしたいコンロを展示する手法をとっています」と説明してくださったのは、つばめガス代表取締役の桑原怜氏。

ショールームのメインステージでコンロの美しさを引き立て、自らも堂々たる存在感を放つキッチンのカウンタートップに採用されたのがコーリアン®。「コーリアン®のよさは、サイズや形を自在につくれて、高級感があること。以前もコーリアン®を使用したキッチンを置いていたのですが、お客様にとっても好評でしたので、今回も迷わず指定しました。製作に際しては、使い手を選ばず万人に受け入れられながら、他にはないシンボリックでワクワクするようなデザイン、実際の家庭に設置しやすいサイズそして何よりコンロが美しく映えることを重視しました」と桑原氏。

デザインを手掛けたのは今井商店の今井氏だ。「カウンタートップのコーリアン®はコンロが映えるミルクホワイト、キャビネットは床の色との調和を考えて濃い茶と、色のイメージからスタートし、それに適したフォルムを追求しました」と今井氏。ショールームの中でキッチン自体が大きなボリュームをもつため、その重量感ができる限り感じさせないデザインにすることを特に意識されたそう。「コー



コンロが美しく映える
ショールームのキッチン
つばめガスショールーム

リアン®は側面を斜めにカットしたように仕上げ、コーナー部分も角を落とすようにデザインし、軽やかさを表現しました。さらに天面の周囲に立ち上がりをつけることで洗練された趣を表現すると共に、水仕舞いのよきも叶えてデザイン性と機能性を両立させています。微調整を重ねて導き出した側面の仕上げや立ち上りの角度を忠実に表現できる加工性の高さもコーリアン®の魅力です」と今井氏。さらにカウンタートップとキャビネットの境界にLED照明を組み込み、光によっても浮揚感を演出。「光色はコーリアン®がより美しく見えるように限りなく白い色調に。また、キャビネットの蹴込み部分をステンレスの鏡面仕上げにすることで床との距離感を表現し、ここでも浮揚感を強調しました」。

「コンロが美しく映え、独創性に満ちたデザインはお客様からも驚きをもって注目され、キッチンに装備されたコンロが最も売れているという期待どおりの結果に。桑原氏は「コーリアン®を採用することで、人の温かさ、ガスのある暮らしの温かさを表現できたと感じています。弊社リフォーム事業部では、オーダーキッチンを含めたリノベーション提案も行っていますが、お客様から質問を受けることも多く、会話のきっかけになっています」と話してくださった。

使用色
ミルクホワイト (2019年3月カタログ掲載終了色)

●所在地 岡山県岡山市南区福田174
www.tsubamegas.com
●設計デザイン・施工 神戸 今井商店 今井智仁
imai@world.ocn.ne.jp
●コーリアン®加工協力会社 マーブル建材株式会社



1 J型キッチンを2階から見下ろす。コーリアン®が床や建具に用いられた木の質感とも調和し、スタイリッシュななかにも温もりを感じさせる空間を演出。ワークトップと同じコーリアン®でつくった蓋を開めれば、内蔵された鉄板焼き機の存在もまったくわからない。2 ワークトップの側面は流れるような曲線を描きながら厚みが大胆に変化するデザイン。ゲストの誰もが想像以上の存在感に驚きの声をあげるといふ。

ハワイに年1回、1ヶ月は滞在するというオーナーご夫妻の要望から生まれたハワイのリゾートハウスのようなK氏邸。中庭のプールテラスに面して大きな開口をもつ、天井高5mのダイナミックな吹き抜けのLDKで中心的存在となっているのが、全長4mものアイランドキッチンだ。

「わが家は来客が多く、妻は料理が得意なので、新築にあたっては『人が集まるキッチン』をイメージしました。以前の住まいはキッチンが離れていて、リビングなどで友人たちと会話を楽しくても料理をする妻だけは孤立状態。そこで希望したのがリビングとダイニング、キッチンを一体にすること。キッチンのワークトップにダイニングカウンターをつなげ、さらに鉄板焼き機もカウンターに造り付けたいとお願いました」とK氏。

キッチンの設計・デザインを手掛けたのは今井商店の今井智仁氏。建築設計の田中一郎建築事務所・田中氏から示されたLDKの平面図とキッチンイメージをベースに、お互いの意見を交わしながらつくり上げていったという。

「ワークトップは上から見るとアルファベットの『J』字型。オーナー様の名前の頭文字を採り入れました。さらに変化をつけるため、側面は美しい弧を描きながら、カウンターの厚みが大胆に変化するデザインに。カウンター自体が長いので、端まで食卓として必要な強度がとれる厚み・形としています」と今井氏。ワークトップ・側面とも、コーリアン®ならではのシームレス接着で継ぎ目がまったく見えないう仕上がりになっていることで、個性的なフォルムがより美しく際立っている。シンクも専用の接着剤でワークトップと一体成形のように仕上げ、よりスタイリッシュな趣を演出している。

使用色
ミルクキーホワイト(2019年3月カタログ掲載終了色)



●設計 田中一郎建築事務所
●キッチンデザイン・設計 神戸 今井商店 今井智仁
imai@world.ocn.ne.jp
●コーリアン®加工協力会社 マーブル建材株式会社

「ワークトップが主役となるよう、キャビネット部分はステンレスの鏡面ブラック仕上げを採用して存在感を消しているのもポイント。ワークトップにはっと目がいったときに、下のキャビネットの存在が気にならない、けれど高級感のある素材を選びました」と今井氏。

「提案を受けたときは石のように冷たいのではないかと心配しましたが、実際は見た目も触り心地も温かみがあって気に入っています。汚れがつきにくく、掃除もさっと拭きただけできれいなおもうれいすね。シンクとワークトップも継ぎ目がないので汚れがたまらず清潔さを保てます。使い勝手の点でも、作業スペースは広々としてゆとりがありますし、調理をしながらカウンターに座る人にもリビングやプールサイドで寛ぐ人にも目が届きます」と奥様。引越してから1年が経ち、多くのゲストが訪れ、奥様の手による美味しい料理とともに楽しい時間を過ごされている様子。シンボリックなキッチンを中心に、今後もよりたくさんのコミュニケーションが広がっていくとだろ。



美食とともに寛ぎの時を。
人が集うキッチン

姫路市 K氏邸



上質な空間に映える
ソリッドなキッチン
VILLAIR

豊かな自然に囲まれ、眺望の素晴らしい土地に建てられたセカンドハウス。施主の要望は「モダンかつラグジュアリーな家」だった。設計を手がけたのはMETAPH建築設計事務所。景色のみに視線が向かうように居住空間を敷地から張り出すように設け、雑多な景観や外からの視線を遮ってプライバシーを確保した。LDKの大きな開口部からはテラス、プール越しに神戸や大阪のパノラマを一望することができ、そのダイナミックな空間の中央にキッチンが配されている。

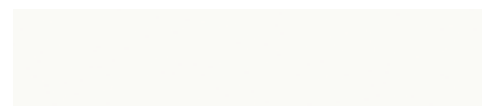
「建築家から伝えられたイメージは、『造形的な塊』。フォルムの基本は台形を立体化した四角錐台でした。色は奥様の好きな白で、他にはないキッチンをというオーダーでした」と語るのはキッチンのデザイナー・設計を担当した今井商店の今井智仁氏。内装や家具、照明など、空間を彩る一つひとつのものに存在感があるため、キッチンは主張しすぎず、しかしありきたりではないものが求められた。

四角錐台を構成する6つの面はそれぞれ異なる大きさ・形をしていて、角度もそれぞれ異なる、まさに唯一無二のフォルム。テーブルとして使う側は、ハイチェアを置いたときに足が収まるように面の角度を調整するなど、機能性にも配慮されている。素材はワークトップのみならず、キャビネットの扉面も含めて5面すべてにコーリアン®が採用された。

「いろいろな素材がある中、言葉では表現しきれないほど複雑な形状のキッチンを、目地や継ぎ目のないひとつの塊として表現できるのはコーリアン®だけ。面と面がジョイントする角のシャープなラインも美しく仕上げることでできる加工性の高さも魅力です。コーリアン®は白色のバリエーションも豊富ですが、今



使用色
ミルキーホワイト(2019年3月カタログ掲載終了色)



●設計 METAPH 建築設計事務所
●キッチン デザイン・設計 神戸 今井商店 今井智仁
imai@world.ocn.ne.jp
●コーリアン®加工協力会社 マーブル建材株式会社

回はこっくりとした、濃度の高い質感のあるカラーを選択しました」と今井氏。複雑な形状ゆえに図面だけではどの面がどう入り込んでいるかなどを製作側に伝えることが難しかったため、実物大の模型をつくり、各面の部材のサイズや組み合わせ方も細かく指示するなどして対応したという。

「表からの見え方も大事ですが、キッチンを使う人にとっては作業側がメイン。一般的には表から見えない側は素材を変えるケースも多くありますが、ここではキャビネットの扉や引き出しの面材といった作業側もコーリアン®を採用しました」と今井氏。引き手部分はダイヤ形に仕上げ、開閉のしやすさとデザイン性を両立。5面すべてをコーリアン®とすることで、より完成度の高い「塊」を表現しているという。

空中に浮かぶかのようなLDKの大空間に映える「白い塊」は美しいオブジェのよう。ゆつたりと流れる上質な時間のなかに、凜として佇んでいる。



通常時(写真左)とライト点灯時(写真右)



山形から世界へ発信 Emerge light table

秋葉アトリエ

近年ではスマートフォンやテレビなどの最新技術として、私たちの暮らしにも身近な存在になりつつある有機EL(有機エレクトロルミネッセンス)。この有機EL照明パネルを活用したテーブルを開発したのが山形県にある秋葉アトリエ代表の秋葉圭史氏だ。

「1993年に世界で初めて白色有機ELの発光に成功したのが山形大学教授でいらつしやる城戸淳二氏。そのつながりから、山形県では産官学が一体となって有機ELパネルの研究・開発を積極的に進めています。そうしたなかで目にしたのが白色有機ELが量産されるという新聞記事。そこで近い将来私たちの生活の中に深く浸透し、世の中は変わっていくと確信したのです。LED(発光ダイオード)とは異なり、面発光で非常に薄いため曲げたり丸めたりすることができ、太陽光の波長に近い自然な光であるなど、有機ELの特性を活かした明かりをつくることはできないだろうかと考えたのがきっかけでした」と秋葉氏。その後、県や産業界技術振興機構の補助金を活用し、山形に工場をもつ照明器具製造メーカーの東金工業との共同開発で生まれたのが、有機EL照明パネルを埋め込んだライトテーブル「イマージュ」だ。

「有機ELとテーブルを組み合わせた理由は、家族が集うダイニングで身近に接してもらうことで親しまれ、多くの人に有機ELが認知されるようになってほしいという思いから。また、主照明としての明かりではなく、癒しの空間をさりげなく演出するための明かりをつくりたいと考えました」と秋葉氏。

テーブルトップの素材に選ばれたのはコーリアン®のグラサホワイト。

「テーブルの台座に有機EL照明パネルを埋め込み、その上にテーブルトップを置くので、ほどよい透光性があるコーリアン®は最適な素材。汚れがしみにくく、食材をこぼしても拭きとるだけできれいになる、傷や熱に強い、美しくやさしい温もりがあるといった特性もテーブルにはぴったり。パンをこねることができるときの作業性の高さも魅力でした。和紙を通過した障子ごしの光のように、透過させることで生まれる特有の光の優しさ、美しさ、癒しを表現したいとの思いに込められるのがコーリアン®でした」と秋葉氏。テーブルトップは側面を舟型に加工して浮遊感を演出し、表面は磨き仕上げにして置いた物や光がより美しく映りこむようにしている。有機EL照明パネルは、コースターに見立てた位置に配置。ガラスを置くとコーリアン®を透過した光が屈折、拡散し、ガラスそのものが光ってテーブルの上に発光体が出現したかのよう。やさしくエモーショナルな光が癒しの空間をつくり出している。「有機EL照明パネル、台座製作、そしてデザインとすべてが山形産というのも強くこだわった点。有機ELのもつ大きな可能性を、山形の地から日本、さらに世界へとアピールしていきたいと思えます」とのことだ。

使用色
グラサホワイト(2019年3月カタログ掲載終了色)



●デザイン 株式会社秋葉アトリエ 秋葉圭史
●製作 東金工業株式会社、株式会社朝日相扶製作所
●有機ELパネル Lumiotec 株式会社



子どもが行きたくなる わくわくするトイレ空間

師勝幼稚園



使用色（左から）
シトラスオレンジ、インベリアルイエロー、ブルーミンググリーン



●施工 学校法人余合学園
●設計 株式会社アトリエユニゾン 一級建築士事務所 鈴木靖、田中まみ
●製作 有限会社 ヤマシタ・プランニング・オフィス
●コーリアン® 加工協力会社 株式会社インテック

「コーリアン®で実現できれば理想的だけど、果たしてできるのか、という手探り状態からのスタートでした」とおっしゃるのはアトリエユニゾンの鈴木靖氏。北名古屋市にある師勝幼稚園のリノベーション計画で手がけたトイレに、カラフルなコーリアン®がぐるりと渦を巻くユニークでかわいらしいトイレブースをデザインされた。

「年少クラス用のトイレなのですが、子どもたちが扉で遊んだり、手を挟まないようにしたいのご要望があり、扉がなくても視線を遮ることができる渦巻き形状のブースを考案しました」。

年少クラスでは、トイレトレーニングを行っているが、扉のないブースは子どもにとって入りやすく、先生の介助もスムーズにできる画期的なアイデア。ブースの高さは子どもの背丈に合わせてあるので大人が見守りやすく安全性にも優れている。また、角のないデザインは、汚れやバイ菌の溜まる部分をつくらず衛生的だ。

「コーリアン®はカウンターのワークトップなど、まっすぐな板として使用することが多かったのですが、ここまでの加工ができるとは思っていませんでした。ところが、あらためていろいろ施工事例を見てみると、私たちが思っているより強度があつて、自由度の高い素材であることがわかりました」と、アトリエユニゾンの田中まみ氏。

そこで、オーダー家具を手がけるヤマシタ・プランニング・オフィスに製作を依頼。工場で二分割したパーツを製作し、現場でシーム接着を行うという方法で、コーリアン®の特性である曲げ加工とシームレスな接着を駆使して完成させた。「本当に継ぎ目が目立たなくて、美しいカーブに驚きました」。

師勝幼稚園は1964年の開園。改修前のトイレも築45年を経過していて、閉鎖的な設計で寒々しい印象だった。子どもたちにとっては「暗くて怖い場所」となっていたという。「トイレトレーニング中は特に、トイレに行くことを嫌がるお子さんもいますので、できるだけ抵抗感なく入ることができるように、明るく、カラフルに、かわいらしいデザインで、わくわくする空間になるよう心がけました」と鈴木氏。

リノベーション工事であるため、既存の建物とのマッチングにも配慮され、今回改修したトイレとは別に工事を行った部分にも黄色、オレンジ、緑の3色を、ポイントを絞って使う「差し色」として採用してきた。トイレもそれに対応させて、大便器のブースにはコーリアン®シトラスオレンジとインベリアルイエロー、小便器のパーティションにはブルーミンググリーンを使用している。「床や壁など空間は白で統一し、そこにビビットなカラーを置くことで視認性が高くなり、トイレに行くという行動を促しやすくなっていると思います」と鈴木氏。子どもたちは「今日はオレンジに入るー」など、カラフルなトイレを楽しんでいるとのこと。また、コーリアン®は汚れが付きにくく、お手入れがしやすいと先主方にも好評だ。

機能性だけでなく、子どもたちの心の成長と、感性を育んでいるこのトイレ空間は、2018年度のキッズデザイン賞を受賞している。

「コーリアン®はカウンターのワークトップなど、まっすぐな板として使用することが多かったのですが、ここまでの加工ができるとは思っていませんでした。ところが、あらためていろいろ施工事例を見てみると、私たちが思っているより強度があつて、自由度の高い素材であることがわかりました」と、アトリエユニゾンの田中まみ氏。

そこで、オーダー家具を手がけるヤマシタ・プランニング・オフィスに製作を依頼。工場で二分割したパーツを製作し、現場でシーム接着を行うという方法で、コーリアン®の特性である曲げ加工とシームレスな接着を駆使して完成させた。「本当に継ぎ目が目立たなくて、美しいカーブに驚きました」。

師勝幼稚園は1964年の開園。改修前のトイレも築45年を経過していて、閉鎖的な設計で寒々しい印象だった。子どもたちにとっては「暗くて怖い場所」となっていたという。「トイレトレーニング中は特に、トイレに行くことを嫌がるお子さんもいますので、できるだけ抵抗感なく入ることができるように、明るく、カラフルに、かわいらしいデザインで、わくわくする空間になるよう心がけました」と鈴木氏。

リノベーション工事であるため、既存の建物とのマッチングにも配慮され、今回改修したトイレとは別に工事を行った部分にも黄色、オレンジ、緑の3色を、ポイントを絞って使う「差し色」として採用してきた。トイレもそれに対応させて、大便器のブースにはコーリアン®シトラスオレンジとインベリアルイエロー、小便器のパーティションにはブルーミンググリーンを使用している。「床や壁など空間は白で統一し、そこにビビットなカラーを置くことで視認性が高くなり、トイレに行くという行動を促しやすくなっていると思います」と鈴木氏。子どもたちは「今日はオレンジに入るー」など、カラフルなトイレを楽しんでいるとのこと。また、コーリアン®は汚れが付きにくく、お手入れがしやすいと先主方にも好評だ。

機能性だけでなく、子どもたちの心の成長と、感性を育んでいるこのトイレ空間は、2018年度のキッズデザイン賞を受賞している。

想像力が、未来をつくる

かつて、海の向こうに何があるのか想像した人たちがいました。

彼らは船に乗り、新しい大陸を発見しました。

かつて、空の高さを想像した人たちがいました。

その想いはやがて、宇宙船を生みだしました。

すべてのはじまりは、人の想像力でした。

いまを生きる私たちの想像力が、新しい未来をつくる。

頭の中のアイデアを、思い描いたイメージを

もっと自由に形にできたら。

2019年、CORIAN®は大幅にバリエーションを増やし

102のカラーと無限の可能性で

想像する人たちを支えます。



Make Your Space™



コーリアン®ニュースはWEBでもご覧いただけます。

www.corian.jp

2019年の新色紹介はこちら

www.corian.jp/-2019-new-colors-



◎施工事例募集

コーリアン®を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

デュポン・MCC株式会社

〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル TEL:03-5410-8551 FAX:03-5410-8501

©デュポン・MCC株式会社 著作権:いかなる形式においても許可無く、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2019 Du Pont-MCC Co.,Ltd. All rights reserved. CORIAN®, コーリアン®, Make Your Space™, DuPont™は、米国デュポン社もしくは米国デュポン関連会社の登録商標または商標です。